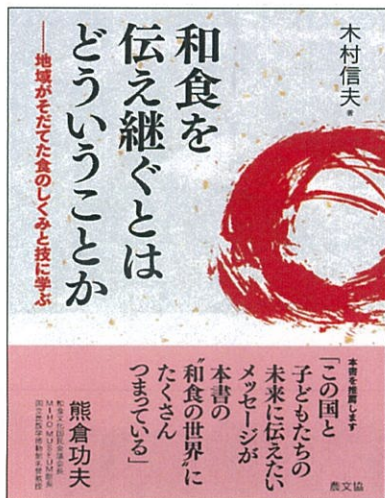


和食を伝え継ぐとはどういうことか

地域がそだてた食のしくみと技に学ぶ

木村信夫著 農文協 刊 四六判 212頁 2,000円(本体)+税



「この国と子どもたちの未来に伝えたいメッセージが

本書の“和食の世界”にたくさんつまっている」

推薦 和食文化国民会議会長、MIHO MUSEUM館長、

国立民族学博物館名誉教授

熊倉 功夫 氏

内容紹介:「和食」とは、単に個々の和風料理のことではなく、日本の地域自然と人間の農林漁業労働の合作、交響の産物だ。日本の地域地域で自然を生かし自然に生かされ、個性あふれる四季の食材をつくり、活かし切ってきた食事の総体であり、日本人の日常生活文化の土台である。引き継ぎ、伝え継ぐべきその内容と今日的意味を、食を大切に思う全ての人びとに贈る。

目次 序 食で子どもたちに「宝の循環」を

昔の食への若者たちの共感／「地域の食」で子どもたちに安全安心な未来を

1章 発見「地域の食」という宝もの

ユネスコ無形文化遺産になった「和食」／「和食」とは地域の食文化／生産と生活一体の営みとして食を捉える／「日本の食生活全集」に学ぶ／食が地域アイデンティティを育てる

II章 おばあさんから聞き書きした「地域の食」の魅力

「庶民の生活思想」を浮きぼりにする／食糧・環境問題を解決するおおもと／地域のおいしさを支える味覚

III章 和食を伝え継ぐ

いま全国で、食の再発見と伝承、交流の動き／食文化は教育財産、小中学校での食育ネットワーク教育／食育のまちづくり宣言／「貧困—不健康の循環」か「宝の循環」か／「地域の食」「地域の元気」で世界と交流

著者：木村信夫（きむら のぶお）1946年、長野県茅野市生まれ。1970年、北海道大学農学部農業経済学科卒業。同年（社）農山漁村文化協会に就職。映像作品、書籍、文部省検定教科書（高校農業）、「日本の食生活全集 全50巻」「月刊 現代農業」「農業技術大系」など農・食・教育関係の出版物の企画・編集にあたる。